

⑩日本海東北自動車道・磐越自動車道における 暫定2車線区間正面衝突防止対策の取組み

受賞機関 東日本高速道路株式会社
新潟支社 新潟管理事務所

キーワード 交通安全、交通管理者との連携、
事前広報の成功

全建賞審査委員会の評価ポイント

新潟県内の日本海東北自動車道及び磐越自動車道の暫定2車線区間60kmのうち、土工部(約24km)と中小橋梁部(約0.1km)で、正面衝突事故防止のため、ワイヤロープの試行設置を完了させた事業。

ワイヤロープの施工にあたり、騒音低減など地元には十分配慮するとともに、将来の運用の準備として交通管理者と事前の連携も実施した点や、利用者やマスコミ等への広報も積極的に行うなど、試験場での検証から実道への試行設置・検証に円滑に移行・実施している点、さらに、現に正面衝突事故を防止する成果をあげている点が評価された。

1. はじめに

我が国の高速道路の約3割を占める暫定2車線区間については、その大部分が上下線をラバーポールで区分する構造となっているが、対向車線への飛び出し正面衝突による悲惨な死亡事故が発生するなどの安全上の課題があった。その対策として国の方針に基づき従来のラバーポールに代えてワイヤロープを設置することによる安全対策の検証を行うこととなった。



ワイヤロープ

2. 事業の概要

東日本高速道路株式会社新潟支社管内では平成29年度に日本海東北自動車道及び磐越自動車道の暫定2車線区間60kmのうち約24kmの土工部と4橋の中小橋において全国に先駆けてワイヤロープの試行設置を行った。工事は夜間通行止めにより1ヵ月程度の短期間で完成させるため、施工人員を増員するとともに、沿線住民への騒音対策にも留意し実施した。

ワイヤロープの構造上、スリーブ管の設置時に連続的な打撃音が発生する。このため沿線住民へ工事の背景や騒音の発生時期、実際の施工機械による試験施工に基づ

き、想定される音量などを事前に説明したこと、日々の取組みとしては騒音の発生する作業を24時まで限定したこと、さらに工事実施後の騒音実測値や施工結果の報告も行い、工事へのご理解とご協力を得られ、騒音に関する苦情はいただかなかった。

また、ワイヤロープ設置後の事故復旧訓練や維持管理上の課題整理を目的に、あらかじめ試験ヤードでワイヤロープのモデル施工を実施し、交通管理者等の関係者との事前確認を十分に行い現場作業に臨んだ。

その他、長期間・長区間の夜間通行止めを実施することから、テレビ・ラジオCMや新聞広告などマスコミへの広報も積極的に行い、ワイヤロープの目的や通行止めの必要性について広くPRした。

3. 事業の成果

平成29年4月の設置以降、1年間で65件の接触事故は発生しているものの、対向車線への突破事故は、平成28年度の16件に対し0件であり、車線飛び出し防止に高い効果を有していることが確認できた。



事故時破損状況

4. おわりに

ワイヤロープはその構造・機能上から接触時には支柱が破損するため、直ちに上下線を通行止めにしての復旧作業が必要となる。接触事故による通行止め日数や通行止め時間は増加している。また、お客さまが路肩寄りを走行する傾向にあり、路肩停車中の故障車両や路肩での維持作業との接触にも十分な注意が必要である。

今後これらの安全確保や接触事故の抑制を図るためさらなる安全対策・注意喚起対策の検討を進めていく。

賛助会員 大林道路(株)